

青春耽歌

玉井秀男

神松寺 バス停前の 下宿屋の 二階の角の 三畳一間
ギター弾き 自作の歌を 口ずさむ 失くした恋の マイナーコード
先月と 違う女が 俺を見る 首をかしげて 足投げ出して
ソーセージ 食いちぎっては コップ酒 女の髪が 静かに揺れる
指絡め ほんのり酔って 膝枕 赤いルージユの 時だけ流れ
腹ばいで くわえ煙草に 火をつける 部屋を彷徨う 心と紫煙
耳にする 女の寝息 今日もまた 何事もなく 日が暮れていく

神松寺 バス停前の 下宿屋の 二階の角の 三畳一間
白濁の スープに躍る ラーメンを 鍋ごと抱え 腹にかき込む
大学に 久しぶりだと 顔を出す 見慣れた校舎 見知らぬ講師
キャンパスは 相変わらずの アジビラと 学生デモに シュプレヒコール
目を細め 芝生の上で 胡坐かき 煙草くゆらせ デモを眺める
退屈で 授業抜け出し 街に出て 三本立ての 映画三昧
金がなく 歩いて帰る 今日もまた 何事もなく 日が暮れていく

神松寺 バス停前の 下宿屋の 二階の角の 三畳一間
和菓子屋の アルバイト終え 銭湯へ 他に客無く 貸し切りの風呂
脱衣場で 黒い下着を 脱いでくる 男湯なのに 女の姿
手拭いで 股間を隠し 湯の中に 白いうなじに 乳房がゆれる
洗い場で 女を見れば 丸い尻 股間を見れば 太い一物
風呂屋出て コーラを買って ラップ飲み 雲が垂れ込み 遠く雷鳴
パラパラと 雨が降り出し 今日もまた 何事もなく 日が暮れていく

神松寺 バス停前の 下宿屋の 二階の角の 三畳一間
アングラの 劇団員と 知り合って 誘われるまま 芝居観に行く
公園に 張ったテントの 舞台では 裸の男女 絡んで踊る

暗闇で 点滅をする 照明に 目が痛くなり テント抜け出す
外にいた 警察官の 職質に 学生証を 無言で見せる
公園の 池の水面 陽を受けて キラキラ光る 鏡のように
目を閉じて 風を感じる 今日もまた 何事もなく 日が暮れていく

神松寺 バス停前の 下宿屋の 二階の角の 三畳一間

麻雀で 徹夜した日の 昼下がり 布団にくるまり しばしまどろむ
優しい気な 女の声で 目を覚ます 俺の髪梳く 白い指先

週刊誌 パラパラめくり 俺を見る 微笑みながら 足投げ出して
他愛ない 女の話 聞きながら 煙草をくわえ 相槌をうつ

ギター手に 窓辺に立って 空を見る 耳をすませて 言葉探して
窓の外 変わらぬ景色 今日もまた 何事もなく 日が暮れていく